

かがやき

No.141



外観【西伊興ひまわり園】



作業風景【西伊興ひまわり園】



毎日通園室のクラス【うめだ・あけぼの学園】



ステンドグラス【うめだ・あけぼの学園】

INDEX

令和6年度 第2回知的発達障害部会 総会
..... 2

「令和6年度児童施設分科会施設紹介・
実践発表会」について..... 3

Session! TOKYO 2024..... 4

人権擁護委員会「じんけん Board」..... 6

施設紹介「うめだ・あけぼの学園」..... 8

施設紹介「西伊興ひまわり園」..... 9

リレーコラム、編集後記..... 10

●発行所 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ (<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>) からご覧いただけます。



令和6年度 第2回

知的発達障害部会 総会

広報委員 坂口 啓（調布福祉園）

令和6年度第2回総会は10月30日（水）にZOOMミーティングによるオンライン開催となりました。内容は、行政説明・部会からの報告事項・記念講演の3つのテーマが取り上げられた総会となりました。

○東京都行政説明

1. 地域生活支援課からのお知らせ

(1) 障害福祉サービス等情報公表制度に係る更新手続きのご案内について

(2) 居住支援特別手当について

2. 施設サービス支援課からのお知らせ

(1) 地域移行促進コーディネート事業について

(2) 障害者支援施設等リハビリテーション職員配置促進事業について

(3) 障害者支援施設における感染症対策研修訓練支援事業について

(4) 東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金について

3. 連絡事項等

(1) 施設・事業所における事故等防止対策の徹底について

(2) 施設・事業所における虐待防止体制の整備の徹底について

上記の件について、各担当より説明がありました。

○部会からの報告事項

【報告1】 令和7年度知的発達障害部会東京都へ

の予算要望提出について

【報告2】 令和6年度知的発達障害部会下半期事業計画について

【報告3】 大規模災害時対応マニュアルについて・災害見舞金について

【報告4】 Session!TOKYO2024について

【報告5】 本人部会からの報告について

上記の件について、各担当より、説明がありました。

○記念講演

「今回の「強制不妊訴訟」裁判の経緯と判決内容、また今後の展開、法的課題について」ということをテーマに、講師として弁護士の関哉直人氏と原告、北三郎さんをお招きし、講演をしていただきました。

日本がどのような経緯を経て現在の福祉に至っているのか、優生保護法とはどのような法律だったのか、優生保護法と国賠訴訟という観点から最高裁の判決や今後の展開についてなど、福祉に関わる身として認識しておかなければならない動向をわかりやすく説明していただきました。

今回の講演から、現在当たり前のように行っている支援に対しても、本当に適切な支援なのだろうか、本当に利用者が一番納得の出来る支援を行っているのか、利用者ではなく、支援者側の都合で支援を行っていないかなど、改めて自分自身の支援を振り返るきっかけにもなりました。

貴重なご講演ありがとうございました。

「令和6年度児童施設分科会 施設紹介・実践発表会」について

児童施設分科会 村上 愛美

児童施設分科会では平成30年度から施設職員による『施設紹介・実践発表会』を実施しています。毎回、会員施設だけではなく、大学や短大、専門学校への参加をよびかけています。コロナ禍前は会場を借りて対面で開催していましたが、新型コロナウイルスの流行をきっかけにオンラインでの開催となりました。

この施設紹介・実践発表会の目的は大きく3つあります。

- ・他の施設や事業の様子、取り組みを知る。
- ・参加者だけでなく、発表者にとっても自らの施設を紹介することで学びの機会となる。
- ・東京近郊県で福祉専攻のある大学・短期大学・専門学校等にも案内し、私たちの仕事へ興味を持つきっかけ作りとなる。

発達に遅れや特性のあるお子さんの育ちを支える環境は多岐にわたるため、年度によって紹介・発表する事業種別は異なります。昨年度は放課後等デイサービスと障害児入所施設の発表でした。私は児童発達支援に長年携わっていますが障害児入所施設のことを知る機会は少なく、障害児入所施設で暮らすお子さんのことを聞いたことが大きな学びとなりました。障害児入所施設で生活しているお子さんは児童発達支援の利用が難しい場合が多く、日中どこにも通えずに入所施設で生活している実情を知りました。幼児期に“同世代の仲間と共に育ち合う”といった貴重な経験が積めないということが、子どもの権利条約の第三条『子どもの最善の利益』に反しているのではないかと衝撃を受けました。それでも「障害児入所施設で幼児期の“今”出来ることを知りたい、考えた

い」とそのお子さんの発達支援について前向きに質問している発表者の熱意に私自身エネルギーをいただきました。

今年度の発表は以下の通りです。

令和6年11月1日（金）15：00～16：45
オンライン開催 参加者31件

発表① 「遊びの組み立てが未熟なお子さんの支援」【児童発達支援】

社会福祉法人正夢の会 多摩市ひまわり教室
下川 莉歩（保育士）/北村 瑛梨（保育士）

発表② 「きらりの紹介と放課後等デイサービスの行事について」【放課後等デイサービス】

社会福祉法人雲柱社 小金井市児童発達支援センターきらり

山口 香世子（児童発達支援管理責任者）
/美濃部 正恵（児童指導員）

質疑応答時間では「アセスメントで大切にしていることは？」「行事はどのように決めているのか？」「グループ療育でお子さんの発達段階の差がある場合は活動をどのように組み立てているのか？」「行事参加を嫌がるお子さんへの対応はどうしているか？」等々、学校の先生や施設職員の参加者からたくさんの質問がありました。

今後も『施設紹介・実践発表会』を通して、施設職員と学校関係機関、発表者と参加者が共に学び合い、発達に遅れや特性のあるお子さんの生活や育つ環境を知るきっかけとなり、“日々どういった思いで支援しているのか”といった職員の思いに触れることで新たな視点を持つ機会となればと思っております。

障害者週間記念行事 “Session! Tokyo 2024”

11月28日(木)～30日(土)、飯田橋セントラルプラザにおいて今年も障害者週間記念行事『SESSION! TOKYO 2024』を開催いたしました。

【原点に帰る】

もともと、文化・芸術活動支援特別委員会は、商品の制作や販売方法、創作活動の着眼点や作品の見せ方など、ご利用者のモノづくりに私たち支援者がどのような視点で取り組めばよいか学べる機会を設けながら販売や展示などを実施していくことに目的を置いていました。コロナ禍などから思うように活動できなかつたところもありますが、今年は“原点に帰る”ことに主眼を置き、事前セミナーや展示・物販の実践など、支援者が学べる機会を設けてきました。

【マルシェ】

本年度は、飯田橋駅横のみやこ橋にテントを張り、1日8～9事業所、3日間で計25事業所が出店をしました。駅からすぐということも、多くのお客様が足を止めて下さり、早々と売切れになってしまう事業所もあり、大盛況でした。



障害者週間記念行事 “ゲンキノカタマリ4”

【アート展（ゲンキノカタマリ4）】

例年、立川RISURUホールで展示（コロナ禍では撮影のみ）を実施してきましたが、多くの人に見てもらおうと、今年はセントラルプラザ1階ホールで実施しました。地下鉄の入口ということもあり、多くの方が足を止めて見て下さり、中には“売ってないの？”と仰ってくださる方も！障がい者アートに日頃触れることのない方々が興味深く見てくれたことは次に繋がる大きな一歩になりそうです。



じんけん Board

わたしの



ホッと

支援を通した利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

<職員のにやり>

ご利用者の嗜好調査がしやすいように、食べ物のイラストを自ら準備してくださいました。ご利用者主体で支援をするA 職員の行動ににやり！

外出回数が少ないご利用者が外出できるように様々な企画を立ててくれています。

実習生対応で動いていた所、その日の勤務の職員皆が記録や日々の業務を済ませて下さり、動きやすい体制を作ってくださいました。本当にありがとうございます。

いつも朝のリネンがきれいにセットされていて気持ちがいいです。自分も意識してやりたいと思います。

ご利用者が動けなくなってしまった時に、声掛けを手伝ってくださいました。支援員が変わることでスムーズに動くことができました。ありがとうございました。

活動室の壁が汚れていたのを積極的に掃除してくださいました。おかげでとても清潔になりました！

利用者Aさんの居室はいつもご本人がちぎった紙が散乱していることが多いのですが、隙間時間を見つけて綺麗にして下さっています。いつもありがとうございます。

ご利用者の採尿を率先して行なってくださいました。ありがとうございました。

休日時など早番の動きを見て、記録作業を全てやってくれていました！いつも周囲への気配り見習わなければと思いました！

<利用者のにやり>

他利用者がユニットを間違えて迷っていたところ、「まちがえてるよ〜」とおしえてあげていました。そのあと、居室まで案内してあげており、とてもやさしいなと思いました😊

イライラしてしまった後に、自分から「さっきは怒ってごめんなさい。明日はがんばります」と職員のところまで言いに来てくださいました。素直に謝ることができてかっこいいです！

二階のご利用者がしりもちをついた際に、すぐさま手を差し伸べた後職員へ知らせてくれて早期に気が付くことが出来ました。

ティッシュを落としてしまった際に、「はい」と笑顔で拾っていただきました。いつも周りをよくみて手助けしていただきありがとうございます！



支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

入選作品

広めよう
法人職員
良い支援

作：ペンネーム KM

作品背景

良い支援を施設内だけでなく、法人全体で共有し広めることで新しい支援や気付きに繋げることができました。また、ちょっとした時間の合間にみる他施設のやりほっとはとても心が安らぎます。

お互いに
気持ち伝え合い
良い支援

作：ペンネーム KS

作品背景

職員私たちの一方的なコミュニケーションだけでなく、利用者からのコミュニケーション、意思表示を組み合わせなければ良い支援はうまれないと感じました。

優秀作品

思いやり
どんなどきにも
忘れずに

作：ペンネーム KH

作品背景

働いてみると自分のことに精一杯になることが多く、そんなときでも思いやりを持って利用者へ接している先輩の姿をみて、私も忙しいときでも思いやりを忘れずに接していきたいと思いました。

最優秀作品

見てごらん
僕の個性と
君の個性

作：ペンネーム KN

作品背景

同じ障がいをもって利用中であっても、私たちが同じように個性があり利用者の障がいだけでなく、それぞれの個性である強みを活かした支援をしていきたいと思えます。

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮をお願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします（その旨記載してください）。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局
chiteki@tcs.w.tvac.or.jp 宛に「じんけんboard 投稿」とタイトルをつけて送信してください。

施設紹介

社会福祉法人からしだね うめだ・あけぼの学園

【どんなところ？】

毎日、給食の時間になると、子ども達のお祈りの歌が聞こえてきます。社会福祉法人からしだね うめだ・あけぼの学園は、ドイツ人神父ペトロ・ハイドリッヒ神父により、1977年2月、足立区梅田の地で産声をあげました。キリスト教の愛の精神「信仰と希望をもって隣人を愛する」実践を基本理念としています。現在、支援が必要なお子さんや発達が気になる0歳児～5歳児のお子さんが利用しています（児童発達支援 定員120名、実利用人数281人/2024年11月1日時点）。保育所等訪問支援や知的障害児等療育支援事業（東京都の委託事業）などによる地域支援や、地域のインクルージョンの中核機能を担っています。



【毎日通園室のクラス】
モンテッソーリ教育をベースにした環境づくり・設定がされています

【特色】

- ①「りんごの木」の実践：りんごの実＝子ども、葉っぱ＝両親や家族、幹＝地域生活、根＝制度や社会。学園では、支援をりんごの木になぞらえた実践を積み重ねています。
- ②モンテッソーリ教育を基盤：個を大切にする支援と整備された環境・教材を整えています。
- ③0歳からの支援。ダウン症や小さく・早く生まれたお子さんも通うことができます。
- ④チームアプローチ・多職種連携：様々な職種や役割を持つ職員が、子どもを中心にすえて支援を行っています。
- ⑤アセスメントに基づいた支援：子どもを支援するための様々な資格を持つ職員が、それぞれの専門性に基づいたアセスメントを行います。

【最近のトピックス】

- ① 2024年4月から、児童福祉法改正に伴い「中核拠点型児童発達支援センター」が制度化され、足立区に登録されています。
- ② 2024年4月に、酒井康年が3代目園長として就任いたしました。

【メッセージ】

うめだ・あけぼの学園には、いろいろな機能があります。学園の取り組みをいろいろな方にご覧いただき機会として、見学説明会なども開催しています。どうぞ足をお運びいただき、「子どもを真ん中にした専門性の高い丁寧な支援」の実践をぜひ知ってください！



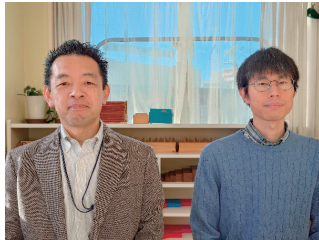
【遊戯室】

運動の育ちを促す取り組みを行う部屋。子ども達はボールプールが大好きです。



【ステンドグラス】

玄関で、来園する方たちをお迎えます



左：3代目園長 酒井
右：副園長 佐野



【給食】

毎日、厨房で栄養士や調理員が子どもと職員のために調理しています。

施設紹介

西伊興ひまわり園

サービス管理責任者 宮崎 大輝

【施設紹介】

平成16年に足立区手をつなぐ親の会より、社会福祉法人あだちの里へ引き継がれました。平成23年に建物を新築し現在の西伊興ひまわり園となりました。足立区の北西に位置し、周辺にはみどりや水に恵まれ、スポーツ施設や遊具のある舎人公園があります。住宅街の中に位置していますが、自然も感じることのできる環境です。主に知的障がいのある18歳以上の方が、家やグループホームから通所され日中活動を行う生活介護事業です。

【日中活動】

日中活動として、各種受注作業や自主生産品の製造販売、クラブ活動などに取り組んでいます。その他にも季節行事や外出行事を行っています。受注作業では、主に製菓会社よりボトル詰め作業をいただき、金平糖やラムネなどをボトルに詰めて検品をして納品しています。工程ごとに得手不得手はありますが、それぞれが強みをいかして取り組んでいます。

【ドライフルーツ】

建物新築時に自主生産品のドライフルーツ作りが始まりました。仕入れから製造、販売、納品まで全てご利用者が関わっています。手間暇を惜まずに愛情込めて製造しています。地域のイベントに声をかけていただき、出店することで認知度もあがり、多くの方に愛される商品となっています。



ドライフルーツの完成

【乾燥食品】

食品乾燥機を活用して、果物以外にも野菜の乾燥粉末の製造を行っています。足立区の特産である小松菜を乾燥粉末にして製麺所に納品し、あだち菜うどんとして区内の飲食店で提供されています。

【最後に】

これからも地域の皆様にご理解いただきながら、ご利用者が生き生きと通い続けられる施設運営をしていきます。ドライフルーツの店頭販売も行っていますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



敷地内の畑でのじゃが芋収穫



ひとつずつ丁寧に皮をむいていきます



スライスしてきれいに並べて乾燥機へ

「利用者を支える根っことして」

社会福祉法人日野青い鳥福祉会
あおいとり日野主任 土屋 紗織

あおいとり日野は、東京・日野市で生活介護を運営しています。生活支援のミッションを「穏やかさ」においています。手がかからない、困らないではなく、生活の張りを持って暮らすイメージです。

あおいとりの力点は、＜エピソード運動＞にあります。利用者の心情の流れや仲間関係などを下地にして“こんなことがあった”と具体的なやり取りの振り返りです。利用者の歩みと私たちの関わりで生みだす暮らしの姿は、凸凹があり紆余曲折を経たその人の地である全体像として捉えています。

ある日の出来事です。自閉症のAさん、GHから登所してくる道中でストップ、GH職員さんから「動けないので迎えに来てほしい」との連絡がありました。歩道にゴロンと寝転がり、私の方を見てくれました。「Aさん、おはようございます！お迎えに来たよ！」と横に座ると程なく立ちあがってくれました。気持ちを切り替える時に応援がほしい、そんなときに思い浮かべる存在となっていること、Aさんと私との関係性を感じられる出来事でした。

行動に着目すると、本人の問題と解釈しがちで関係は深まりにくくなるものです。具体的な心情をすくい上げることは、利用者の思いに気づく

きっかけを生みます。すると生き辛さの土壌に戸惑いながらも「そういうことか」と共感的なつながりに立てます。こうした機縁が持てれば「私は、私でいい…」との自己肯定感につながり、「穏やかさ」の下地になってゆくと考えています。

その上で、あおいとりでは“あいうえおの実践”に取り組んでいます。

- ・あーあいさつ 気持ちの良い出会いと別れ、次の出会いへのエネルギーが生まれる
- ・いーいたわり 気持ちを支え、立ち直りのきっかけを作る
- ・うーうなずき 否定されないことで、ありのままでいられる関係
- ・えーえがお 喜びを共有し、安心感を注ぐ
- ・おーおうえん 勇気づけられ持ち味を発揮する節目になる

常識的な事柄ですが、生身の関係が基盤になって心が揺さぶられ、人柄が作られます。自分の思いもあるけれど、「あいうえお」で支えられた実感があって相手を気遣い、折り合える等、心根が引き出されていく関わりでありたいと考えています。私たち支援者にとっても皆さんとの出会いで心が豊かになります。これからもこの根っこを大事に支援に携わりたいと思います。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

2025年は巳年ですね！今年は「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年のようです。何事にも自分のペースを保ちながら焦らず粘り強く取り組んでいきたいですね。

さて、今年も広報委員会では、より良い紙面づくりを目指し皆様に役立つ情報を発信してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

厳しい寒さが続いています。お風邪など引かれませんように。

広報委員 武田 泰尚（竹の塚福祉園）